

IFACニューヨーク理事会報告

IFAC（国際会計士連盟：International Federation of Accountants）の理事会が、2013年2月28日及び3月1日にニューヨークで開催された。日本からは筆者が代理として、2月28日のIFAC理事会を傍聴した。以下、会議の概要等を報告する。

1 新CEOの就任

2013年2月1日付けで、Fayezul Choudhury氏（元世界銀行、元公益監視委員会（PIOB）、元PwC）が新たにIFACのCEOに就任した。世界各国のIFAC加盟会計士団体や、会計士団体を取り巻く関係諸団体を訪問し、意見交換していく予定であることが報告された。なお、日本公認会計士協会（JICPA）には、IFAC理事会開催の翌週、2013年3月4～5日に訪問済みである。

2 決算

IFACの2012年の決算書が提示され、承認された。2012年の決算は、23万7,000ドルの赤字となった。2012年の決算見込みは101万4,000ドルの赤字であったが、各基準設定審

議会の会議費用削減や間接費の節約の努力によって、赤字額が見込みよりも大幅に削減された。

3 2014年予算案・年会費案

2011年の総会で提示され、承認された3か年の予算案に基づき作成された、現時点における2014年の予算案が提示された。現段階では、有給の国際会計士倫理基準審議会（IESBA）の独立議長の就任やモニタリング・グループ（MG）への対応による費用増をはじめ、各種の基準設定審議会に関する費用の増大、逆に、国際公会計基準審議会（IPSASB）やPIOBに関して外部から資金調達の拡大が見込めないこと等から、費用削減努力をしても、21万1,000ドルの赤字見込みとなっている。

IFAC加盟団体の年会費については、2011年の総会提示から大きな変更はなく、JICPAの年会費は、2013年の70万5,000ドルが、2014年は73万1,000ドル（3.75%増）となる見込みである。

なお、IFAC加盟団体の年会費については、今後、新たな計算方式を検討し、確定させることとしている。

4 IFAC専務理事戦略フォーラム

理事会に先立って開催されたIFAC専務理事戦略フォーラム（IFAC Chief Executives' Strategic Forum）の議題であった、IFAC定款レビュー及び2020年へ向けた戦略計画レビューについて報告された。

5 IFAC定款レビュー及び戦略計画

IFAC専務理事戦略フォーラムの審議を踏まえ、IFAC定款・付属定款レビューの検討事項の優先順位や今後のタイムテーブルが議論された。まずは、早急にオンライン・サーベイを実施して、加盟団体の意向を確認すること等が議論された。

戦略計画では、対話をすべきIFACを取り巻く関係者には何があるか、2020年を視野にどのような使命・目標が考えられるか、IFACとして各種基準設定主体の独立性をどのように向上させるべきか（独立性不足の指摘に対処する手段）、各国会計士への支援策、資金調達の多様化の方法としての手段について討議された。

6 IPSASBのガバナンス

IPSASBは、IFACに設置されている他の基準設定審議会と異なり、PIOBの監視を受けていない。国際公会計基準（IPSAS）の適用を拡大する上で、適切なガバナンスと監視、特に、PIOBがIPSASBを監視する可否かについて議論されてきた。今後、関係者との会議が開催される予定で

ある（2月下旬の会議にて、PIOBの監視対象に加えない方向となった）。

7 その他

- 2014年11月10日から13日にかけて、イタリア・ローマにおいて開催される世界会計士会議（WCOA）に関して、メインテーマ案「2020 Vision: Learning from the Past, Building the Future」やプログラ

ム案などが報告された。

- 会費交渉の不調により脱退を表明していたブラジルの加盟団体である Conselho Federal de Contabilidade (CFC) について、脱退が発効する前に、再度、話し合いが予定されている旨が報告された。
- 次回の理事会は、2013年6月13～14日に、ニューヨークで開催される予定である。

（事務局 石井和敏）